

小さな積み重ねが、 大きな力に



肥後銀行 総務部 総務企画グループ 齊藤 翠さん

地域と企業の「心の優しさ」を育みたい

「ここは貸金庫です。みんなは何を入りたいですか?」。益城町木山仮設団地から会社見学に訪れた子どもたちに行内を案内するのは齊藤翠さん。本業である銀行業務に取り組みながら、県内企業が連携して社会貢献活動を推進する「YMCAフィランソロピー協会」の幹事の一人として活動の企画や運営などを担っています。

熊本市で生まれ育った齊藤さんは、「ご家族の大切なお金や人生を預らせてもらえる仕事」にやりがいを感じて入行。当時、支店での窓口業務では、自分なりの接客スタイルがつかめずに、悩むこともあったといいます。「でも、お客様に名前を覚えてもらったり、心を許してご自身のことや家族のことを話してもらえたりすることに喜びを感じました」。

2010年に本部へ異動し、肥後銀行が行う様々な文化事業や社会貢献活動の運営を担当するように。その頃から先輩たちとともにフィランソロピー協会の活動に参加していた齊藤さんは、2度目の育休から復帰した2018年、現在の総務部で社内の協会担当者になりました。「例えば、夏祭りの実施や会社見学の取組みなど、個人ではできないようなことに会社レベルで携わることができるのは大きな魅力です。幹事企業9社が集まる幹事会では、他の企業の方

たちと利害関係抜きにいろんな話ができるので、勉強になることも多いですね」。齊藤さんはこまめに情報発信するなど、活動状況を「見える化」して社内でも共有しています。「自分の関わりが『どう役立っているか』が分かるとうれしくなって、さらに興味を持ってもらえます。その『小さな興味』の積み重ねこそ、フィランソロピーを活発にする一番の力だと思うんです。企業としての『心の優しさ』を、もっと育むためのきっかけにもなるといいなと思います」。

子育ても仕事も充実

齊藤さんは5歳と2歳の娘を持つ2児の母。2014年、結婚し初めての出産を経験したことは、人生の大きな節目でした。「これで仕事から離れられる」。一時はそう感じたという齊藤さんは、復帰後、育児をしながらの仕事に不安もありましたが、現在は「職場ではなるべく家庭の話を、家庭では職場の話をするように」という上司のアドバイスに支えられているのだといいます。

自分の状況をなるべく周りに伝えて、協力してもらいやすい雰囲気をつくる、そんなあたたかな輪に包まれ、家事育児と仕事を両立する日々です。「今は、『確実に終業時間までに今日の仕事を終わらせる!』という強い意志で働いています。その分、より効率的な働き方が身についてきたような気がします。今では『結婚・出産しても働き続ける』ことが当たり前になり、マタニティの制服が足りなくなるくらいです。結婚・出産を経てもなお、自分の世界がどんどん広がっていくことは、とてもありがたいですね」。

喜びを感じられる時間

フィランソロピー協会では、熊本地震以降、仮設団地の子どもたちと夏祭りを企画したり、会社見学ツアーを行ったりと、子どもたちとふれ合う機会も増えています。「自分自身が子育てをしていることで、子どもたちへの声のかけ方も変わってきたと思います。ふとした時に『あの子たちは元気かな?』と思うこともあって」。

YMCAのイベントに仮設団地の子どもたちが参加すると聞いて、家族連れて様子を見に行ったことも。「久しぶりに会った女の子が、おもむろに手をつないできてくれたことがありました。もう、メロメロです。親戚や家族が増えたような気持ちです」と微笑みます。

齊藤さんは「職場や家族の助けもあり、自分の生活や仕事を充実させることができているからこそ、社会貢献活動にも心を尽くしている」と語ります。「フィランソロピーはあくまで企業活動の1つではありますが、同時に私の生活の一部にもなり、仕事とはまた違う喜びを感じられる時間です。これまで周りが助けてくれた分、私も頼られる存在になれるよう、頑張りたいです」。齊藤さんは凛とした表情で明るく目標を語りました。



会社見学でお金の数え方を教える齊藤さん

Pickup

水遊びたのしい!
ぶどうの木幼稚園



YMCAフィランソロピー協会
ビール列車で企業交流

在校生が活躍
YMCA学院
夏のオープンキャンパス



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

9月13日 Friday

留学生が想いを語る日本語科スピーチ大会

国際
×
学ぶ

YMCA学院日本語科に通う留学生によるスピーチ大会を開催します。学生たちの学習の成果をぜひご覧ください。

回 9月13日(金) 10:00～12:00

場 東部センター 101教室

因 予選を勝ち抜いた留学生がスピーチをします。

問 東部センター Tel 096-382-6661



10月5日 Saturday

ユースが語る感動体験 ユースフェスタ

学ぶ
×
交流

この夏、様々な経験をしたユースたちが集まり、活動報告を通して交わりを深めます。どなたでも参加可能。ぜひお越しください(軽食あり)。

回 10月5日(土) 14:00～18:00 場 中央センター

因 コスモスキャンプ、ポニーキャンプ(障がい児支援キャンプ)、国際青少年平和セミナー、あそぼうキャンプ(被災児支援キャンプ)、日韓青少年交流、アジア太平洋YMCA大会の参加者からの報告、その他活動紹介(予定)、映画「星に語りて」上映

費 500円(ユース無料) 問 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



9月・10月・11月

みんなのチカラを集めて世界を変えよう! YMCA祭

今年も各センターでお祭りを開催します。地域の皆さん、どなたでも来場可能です。益金は、災害復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等のために用います。

バザー出店品、抽選会賞品のご寄贈をお願いしています。また、運営ボランティアも募集します。詳細は各センターにお問合せください。



中央センター 前進祭

広い体育館をメイン会場に、学生や子どもたちによるステージ発表やバザーを開催します。家族揃ってお楽しみください。

回 11月10日(日) 10:30～15:00(予定)

場 中央センター(熊本市中央区新町1-3-8) 問 Tel 096-353-6391

楽しむ
×
チャリティ

ながみねファミリーセンター ながみね祭

今年のテーマは「家族・友だち・地域をひとつに!～世界をつなげよう ながみねの絆～」。

回 9月21日(土) 15:10～19:30

場 ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南3-1-107)

問 Tel 096-385-0676

むさしセンター むさしフェスタ

むさしセンター開設25年。「25(にこにこ) むさしフェスタ!!」マルシェも同時開催。ステージ発表やのみの市もご期待ください。

回 10月13日(日) 10:30～14:00

場 むさしセンター(合志市幾久富1866-1339)

問 Tel 096-248-6334

東部センター YMCA帯山まつり

毎年、国際色豊かな食バザーやステージ発表が好評です。初登場のメニューも多数あり。今、流行りのタピオカも!

回 10月27日(日) 10:00～14:30(予定)

場 東部センター(熊本市中央区帯山2-1-11) 問 Tel 096-382-6661

10月12日～13日

えいごで楽しもう こどもえいごキャンプ

英語
×
キャンプ

今年のテーマは「Animal Camp(アニマルキャンプ)」。

回 10月12日(土)～13日(日)

場 YMCA阿蘇キャンプ

因 年長～小学生(ただし宿泊型野外活動に参加できること)

費 YMCAこどもえいご在籍生 13,000円/非在籍生 15,000円(いずれの料金も交通費、保険料を含む)

問 9月14日(土) 9:00よりWeb受付スタート

問 みなみセンター

Tel 096-378-9370



水前寺幼稚園 わいわい秋まつり

親子で楽しめるお祭りです。子ども向けゲームや食バザーも開催!地域の皆さんもぜひお越しください。

回 11月16日(土) 11:00～13:00

場 YMCA水前寺幼稚園(熊本市中央区出水3-12-1)

問 Tel 096-362-4141



R | E | P | O | R | T

[8月3日⇒ 8月17日]

環境

リフレスおおむたが受賞 星空の街・あおぞらの街全国大会

美しい空から環境を考える「星空の街・あおぞらの街全国協議会」の第31回全国大会が8月3日(土)、北海道の釧路圏摩周観光文化センターで開催されました。熊本YMCAが指定管理者として運営する大牟田市立多目的活動施設リフレスおおむたが、同協議会の会長賞(団体の部)を受賞し、全国から約300名が集まる中、表彰が行われました。

リフレスの開設以前から大牟田市が中心となって実施されてきた「星空観察会」を継承。毎年、夏と冬にそれぞれの季節の星座観察を通して、環境(光

害)についても学ぶ機会を設けていることが評価され、受賞に至りました。専門指導ボランティア、大牟田市環境保全課を中心に行われ、光害の学びでは、模型を使って子どもたちにもわかりやすい工夫がされています。また、数年前から有明工業高等専門学校天文部の協力もあり、幅広い世代の交流の場としても機能しています。全国大会を機会に、各地の団体と情報を交換しながら今後の事業に活かしていければと考えています。

職員 東久文



平和

平和を実現する人に 国際青少年平和セミナー

8月6日、広島は世界各地から訪れた平和を願う人たちでいっぱいになります。毎年YMCAの若者たちも平和記念式典に参列します。式典の様子をニュースで見ることがありますが、実際にこの日に足を運ぶことには大きな意味があります。

8月4日(日)～8日(木)の日程で広島YMCAを拠点に開催された第41回国際青少年平和セミナー。原爆で被爆した箕牧智之さんにその悲惨さを直接聴き、原爆資料館の数々の遺品や写真、目を伏せたくないような出来事にふれ、なぜ人間はこのような過

ちをしてしまうのかと複雑な感覚を抱きました。熊本YMCAから参加した11名の学生を含む、国内外の77名の若者たちがこの経験を共有しました。戦争の惨劇を知るだけでなく、韓国、台湾、インドなど海外の学生たちとの交流からは、平和な未来をつくっていくとする力が溢れているように感じました。

「私たちはこれだけ仲良くなれるのだから、戦争はありえない」、「もっとお互いの違いを認めよう」。若者たちは遠くに住む友だちを大切にすることを誓いました。

職員 中村賢次郎



SDGs

2030年に向けて SDGs推進のための研修会

8月17日(土)、YMCAの運動を支えるボランティア会員である常議員や運営委員と職員を対象とした研修会を中央センターで開催しました。

今年は2030SDGs&SDGs de 地方創生公認ファシリテーターで中学校教諭の神田みゆきさんを講師に迎え、カードを使ったゲームを通して、SDGs(持続可能な開発目標)について学びました。ゲームは2名ずつのチームに分かれて行われ、各チームで設定した目標に向けて取り組みながら、世界の「経済」「環境」「社会」も改善しようとするもの。参加者

からは「前半はチームの目標を達成することで精いっぱいだった。それでは世界は変わらないと気づいた」「周囲に目をくばって、働きかけをする人がいないと、世界が成り立たないのだと分かった」などの感想が聞かれました。

神田さんは「まずは今まで自分たちが行ってきた取組みが、どのようにSDGsに関連しているかを考えてみることから始めましょう。そして、どのような新たな取組みができるかを考え、実行してみることが大切です」と話しました。



平和の源

8月、日韓関係の悪化に関する報道が繰り返される中、熊本YMCAの青年が韓国・大邱YMCAを訪れ、交流しました。複数の新聞に出発式の様子が掲載され、地元テレビ局による同行取材が行われるなど、関心を集めました。

両YMCAの交流は1965年にワイズメンズクラブの韓国訪問によって道が開かれ、1969年7月

に熊本の高校生4名が2週間派遣されたことから始まりました。『熊本YMCA五十年史』には、「猛暑の中、2週間の旅行日程は必ずしも楽なものではなく、途中で体調を狂わせた生徒もあったが、(中略)韓国を身近に理解するよい機会を彼等に与えることができた。この訪韓高校生プログラムは、隔年毎に1979年まで継続して実施され——」とあります。両YMCAは1983年には姉妹関係締結し、役員、職員の交流の他、スポーツ、キャンプ、語学研修等多様な形態で交流が続けられています。

私たちの暮らしている地球は200近い国と地域で成り立っています。2015年9月の国連サミットでは、政治、経済、文化、歴史を超越した地球レベルのチャレンジとして、持続可能な開

発目標(SDGs)が掲げられました。我々の世界を変革し、子どもや孫の世代に安心して渡せる世界を目指すと言言されています。

しかし、現実の世界における国と国の争いは覇権競争と自国第一、保身の様相を呈しています。「近くて遠い国」と言われながらも、微力ながら民間交流を継続している私たちの役割は、アジアの一員として、過去の歴史から学び、現状を知ること、未来に向かう青少年の交流を通して友情を築き、平和の文化をわかち合う「友だち」になることです。そのことが平和の源であると思います。

YMCAは、これからも国際的な平和を実現するために、活動していく団体でありたいと願っています。

t a l a n t o n

サマーキャンプ 2019

今年もたくさん子どもたちがYMCAキャンプを楽しみました。

みんなで旗を
あげよう!



一緒に
水遊びしようよ!



うひゃ〜っ

おいしく
できるかな?



がんばってね



うーん。
いい海だなー

捕まえた!

川もいいよ!



薪割りに
挑戦だ!



カヌー楽しい!



ポニーキャンプ

7月25日(木)〜26日(金)
場所/菊池少年自然の家

熊本県立盲学校の生徒に野外活動を通して様々な経験をしてほしいとワイズメンズクラブとの協働で開催。第45回を迎えました。リーダーと一緒にニジマスをつまみ、塩焼きを作ったり、草そりで風を感じたりと、楽しい2日間を過ごしました。



コスモスキャンプ

8月16日(金)〜17日(土)
場所/YMCA阿蘇キャンプ

子どもたちに野外活動を通して楽しい時間を過ごしてもらい、日常生活で抱える困難を少しでも軽減しようと毎年開催。水遊びやキャンプファイヤーの他、パン焼きやバター作り、割りばし鉄砲などの創作活動も楽しみました。



「ポニーキャンプ」「コスモスキャンプ」の実施は、インターナショナル・チャリティーランに寄せられた支援金によって支えられています。

わたしと聖句

日本キリスト教団熊本草葉町教会

森嶋道

ルカによる福音書15章24節

死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった

でこぼこフレンズ

YMCAのブランドスローガン「みつかる。つながる。よくなっていく。」を読んで、ルカによる福音書15章を思い出した。見失った羊、なくなった銀貨、家出した息子という話が並んでいる。「探す、見つかる、喜ぶ」がメッセージだ。最後の家出した息子が帰って来た時に、父が言ったのが今回の聖句である。本来の姿を取り戻すことを「生き返る」と表現するところが新鮮だ。親子関係の復活と言ったところか。

聖書が言いたいのは、迷子の羊や転がっていったお金や自立したい子どものことではなく、それらは自分の姿であるということ。自分を見失っていないか、自分を握りしめているか、自分を大切にしているかと、振り返るのは、今しかない。

本当の自分を出すのはこわい。NHKの教育テレビで「でこぼこフレンズ」というのを見て、そのままの自分を出せば楽しいかなと思わされた。でも、社会に出ると求められる自分にならざるを得ない。まるで、ジクソーパズルの1ピースのように、周りに合わせて自分を変えなければならぬ。息苦しい中で本当の自分は「死ぬ」のだ。

でも、でこぼこフレンズのように、自分のくせを良さに変える関係性もあるかもしれない。それは、積木のようにならざるを得ない。それは、積木のようにならざるを得ない。それは、積木のようにならざるを得ない。

社会が正しいとされる1つの目標を描くジクソーパズルであれば、神の国はそれぞれのデコとボコが活かされる積木。読者の皆様が見失った自分を見つけ、それを活かせる場を持ち、そのことを共に喜んでくれる人に出会えることを祈っている。

発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人/岡 成也 編集人/因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。